

秋季セミナーのご参加ありがとうございました。

6月3日に教育再生実行会議から出されたポストコロナ期における新たな学びの在り方を示唆する第12次提言は、グローバルリーダーの育成をめざすスーパー教育[®]にとって大きな衝撃でした。いよいよこの国は、本気でグローバルリーダーの育成と向き合うようです。

(教育再生実行会議第12次提言概要抜粋)

学びの多様化等

- 高校生が大学の講義を学ぶ「先取り履修」の推進
- 大学への飛び入学者への高校卒業資格付与

学びの複線化・多様化

- 高校時代に取得した大学の単位数に応じて、修業年限を柔軟化

学事暦・修行年限の多様化・柔軟化と社会との接続の在り方

- 大学等の国際化や学びの多様化に対応した秋季入学・4年期制や早期卒業・修了の推進、秋季採用や最終学年6月以降の通年採用の推進・情報発信

これまで時代の先取り感があり「飛び級の着地点の説明」に明確さを欠いていたスーパー飛び級[®]ですが、国が突然その着地点を高等教育を変えることで示してくれました。もちろん、それは今回のコロナにより露呈したこの国のAIやIoTの研究と普及における大幅な遅れやコロナワクチンを自国で開発できない科学技術力の低下を招いている大学教育の改善（義務教育のツケである大学での一般教養の早期消化）が目的でしょうが、大手に寡占化されブラック企業と言われ始めた塾業界を一変させる力を持っています。

高校生が大学の講義を学び、大学がそれを単位として認めることは、小論文や口頭試問などで行われている総合型選抜（旧AO入試）の在り方を変えたいと思います。その大学が認める単位をすでに持っているということは、新しい大学入試で確認しようとしている「学力の三要素の習得」を完全に満たすことを意味します。

高校で習得した大学の単位による総合型選抜は、これまでのすでに習得した過去の内容の確認に時間を費やする大学入試とは真逆の自分の未来に対する投資（意思と行動）を図る新たな大学入試が可能となります。こども達の成長を妨げる不毛な入試が終わり、逆にポジティブにグローバルリーダーをめざすこども達を鍛錬する次世代の入試が実現できます。そうなればこの国は一気に国力と国としての威厳を取り戻すことができると確信します。

一方で、**高校で大学の講義を学ぶ時間の余裕の実現**と**グローバルリーダーとしての人間力の育成**は、公教育はもちろんですが、その補完に終始する大手も含めて既存の塾ではできません。必要なのは、「飛び級」と自分の意志で自由闊達に学ぶ「自読考[®]」と「**学びと人の基盤を育む国語教育（特に、読解教育）の強化**」です。そして、それらを高効率で成し遂げる「**幼児・低学年の本格的な国語・算数の学び**」と「**毎日学ぶ!**」の実現です。

スーパー教材とまったく教えない自読考[®]、そして幼児の学びを追及しその指導ノウハウをもつスーパー教育[®]ならできます。いや、スーパー教育[®]でなければ時代が希求するグローバルリーダーを育む教育はできません。

もちろん、戦後行われてきたこれまでの教育とは対極にある学びです。市場に浸透させるには、それなりの困難はあります。しかし、こども達は、そして、わが子の未来に大きな期待を抱く保護者様は待っています。それに、わが国の新たな未来を切り拓くには必要です。そして、今なら教育投資を理解する優良な層を寡占化することができます。

国を創るのは人です。その人を創るのは教育です。今こそ、教育のプロである我々が奮い立たねばなりません。今回、秋季セミナーを介してご参加いただいた先生方から大きなエネルギーをいただきました。今しばらく、全力でけん引させていただきます。

秋季セミナーのご参加とご賛同と力強いエール、そして新事業「家庭教育サポートGSC」への参入表明と実際の行動ありがとうございました。皆様方が、この時代と教育の転換期を乗り切れ、新たな私教育の覇者となられることを祈念いたします。